

インターバンクの声（2013年2月12日）

自民党の政権復活以降、極めて差し障りの少ない発言を続けてきた麻生財務相だったが、先週の金曜日の衆議院予算委員会で、少し円相場に誤解を与える発言をしてしまったかも知れない。問題になったのは、「為替がわれわれの意図しないぐらいに78円とか79円とかだったのが、いきなり90円なんてことになったのだと思っている」との発言。予算委員会を直接取材していたメディアの記者であれば財務相発言の真意や前後との兼ね合いがよく分かっていたはずだが、なぜか一部では最近の急激な円安を懸念しているかのごとく伝わった。しかも、ほぼ同時刻には積極的な緩和策を支持する次期日銀総裁を推す安倍首相の意図に対し、閣内や官僚の間に反対論が上がっていることも報じられた。

麻生財務相の問題となっている発言に急速な円安の懸念もさほど感じられないし、日銀総裁に対する閣内や官僚の意見不一致があるのも円を買い戻す直接の原因になっていたとも思いにくい。メディアが相場を誘導できるとは思わないが、バイアスがかかった記事内容に比較的素直に反応する市場展開になっている御時勢なのも否めない。こんな解釈をされてしまうことまで麻生さんも心配している暇もないだろうが、幸い一部を除き海外の要人発言は総じてまだ円安に理解があるような印象だ。

それにしても、最近の要人発言は相場を大きく動かしてくれている。こうした発言には、正確な報道をして欲しいしのは勿論、われわれも注意深く中身を吟味することが大切だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。